

日本のモノづくり
匠の技と機械化の融合で支える

1950年、土佐雄一代表の祖父が神奈川県で土佐鉄工所を創業。
1968年、出身地の秋田で「産業を芽吹かせたい」との想いから秋田工場を設立。
同時に株式会社土佐製作に社名を変更した。
技術力の高い汎用旋盤加工職人が多く在籍し、人の手と最新設備を融合させたモノづくりを得意とする。

匠の技と最先端設備の融合

モノづくりの現場でも機械化や無人化が進む昨今、職人の手による高難度の汎用旋盤の加工と、機械制御によって高速・高精度を実現する最新設備との融合で、他の追随を許さない技術力を誇るのが株式会社土佐製作だ。

本社は神奈川県にあるが、秋田県出身の祖父が「農業だけでなく、産業で秋田を活性化させる一助になりたい」と秋田工場を設立して50年。熟練した技術が強みであるモノづくりの現場では珍しく、従業員の平均年齢が30代前半と技術力だけでなく雇用の面からも地域を牽引してきた。

祖父が興し、父から継いだ土佐雄一代表が率いる同社には、高い技術力をもつ汎用旋盤加工職人が多く在籍しており、海外のインフラ整備に伴う発電機・圧縮機の部品など、国内でもここでしか製造できない難易度の高い仕事が日々舞い込む。



1 “人と機械の能力をうまく組み合わせる”

広い工場内では、汎用旋盤と共に最先端のマシニングセンターやNC旋盤といった大型設備が立ち並ぶ。

「[手の感覚を頼りに削る汎用旋盤は機械に頼れない高難度な加工を可能とする反面、熟練度の高い職人しか携わることができず、製造スピードも遅くなります。全てを人の手で製造するのではなく、互いの利点を組み合わせることで実現可能となる機械加工を目指しています]」

匠の技と最先端設備の融合。そこには“人に投資することこそが生き残りの道”という土佐代表の経営者としての矜持も含まれている。

人に投資することこそが生き残りの道

「顧客ニーズの多様性とそれに応じる働く側の意識の変化。時代が変化中、経営者の立場になって、製造業は他の業界と比べて対応が数年遅れていると感じました」。

旧態依然の慣習や意識のあり方に対し、元々は薬剤師として働いていた経歴を持つ土佐代表だからこそ感じた違和感があった。

「例えば、製品に不良が出たとき“少くらは仕方ない”という考え方は医療現場ではあってはならないことです。また、ベテランの職人さんと若手従業員との間で、工場内におけるコミュニケーションが取りにくいような空気感もありました」。

代表就任後、改めて会社の方針を打ち立てた土佐代表は、全社で向かうべき方向性を示唆し、他業種でも参考になる話は意欲的に取り入れた。意識改革のために自ら講師に立った社内研修では、ベテランの従業員が積極的に“新人や若手があたり前にできていることを褒める”という具体例を掲げ、そこから生ま



2 3

れるコミュニケーションの大切さを説いた。

さらに、若手従業員を中心とした組合や、必要に応じて現場レベルですぐに対応できる委員会などの社内組織も整備。経営者や管理職からのトップダウンだけに留まらない“現場の声”を重視することで、働き方や現場での取り組み方を考える機会を創出していった。今では、世代を超えて技術を磨くための討論や現場で起きた課題の共有などが随所で見られている。

「人生において、会社で過ごす時間、働く時間が占める割合はとても大きいものです。全国で人手不足が叫ばれ、時にはきつい業務もあるこの業界ですが、モノづくりが好きだと集まってくれている彼らに窮屈な環境で仕事をして欲しくないし、この会社に入って良かったと心から思って欲しいんです」。

多様性を認め、仕事と家庭の両立を

土佐代表の改革は、労働環境だけに留まらない。企業の資本である従業員の健康を保つための健康経営やそれを支える福利厚生、また、個々の事情に合わせてWワークの受け入れ体制



を認めるなど、多様な働き方を柔軟に推進している。2020年からは正式に外国人3名の採用を予定しており、これは、同年に70周年を迎える同社にとっても初の取り組みとなる。

「大切なのは何にでも挑戦することです。仕事と家の往復だけでは刺激がなく、考え方も偏りがちになります。それは、常に新しいものを生み出さなければいけないモノづくりの現場にとっても決して良いことではありません。有給休暇ひとつとっても、体調が優れないといった止むを得ない事情のみではなく、自分や家族のために使うことをもっと意識して貰いたいし、それを許容する雰囲気づくりにますます力を入れたいいけないですね」と、土佐代表は微笑む。

機械と技術。ベテランと若手。仕事と家庭。時代に合わせた融合がもたらす変化と可能性を信じ、これからも土佐製作は日本のモノづくりを牽引し続ける。

- 1 マシニングセンターやNC旋盤など多数の大型加工設備を完備。
- 2 熟練の技と目が土佐製作を支える。
- 3 外径満±0.01~0.02の半割れ加工品を特に得意とする。
- 4 工場内では従業員同士、活発なコミュニケーションが図られる。



株式会社土佐製作
秋田工場

〒010-0941
秋田県秋田市川尻町字大川反170-25
TEL. 018-862-3811
FAX. 018-864-1892

創業 / 1950年
● 資本金 / 1,500万円
● 従業員数 / 56名(秋田工場49名)
● 営業品目 / 産業機械部品加工、金型加工全般、空気圧縮機、油圧器機、送風機、プレス機械、シリンダ設計製作、特殊リフト、建設機械サービス、保守・組立

代表取締役
土佐 雄一
とさ ゆういち